

「日本常民文化研究所展示室」と 企画展「近藤友一郎和船模型の世界」

会場：神奈川県横浜キャンパス3号館 神奈川県展示ホール

展示期間：2014年3月25日より

アチックミュージアムから神奈川県常民研へ ——「日本常民文化研究所展示室」——

窪田 涼子



写真1 アチックミュージアム時代の民具展示室のパネル

2014年3月25日、新しく完成した横浜キャンパス3号館の1階に「神奈川県展示ホール」が新設され、「神奈川県史展示室」とともに「神奈川県日本常民文化研究所展示室」が開設された。

この展示室は、アチックミュージアムから始まり神奈川県日本常民文化研究所として現在に至る活動の足跡を、おもに研究の展開と人物紹介を中心に展示したものである。

展示の大項目は、(1) 渋沢敬三とアチックミュージアム、(2) アチックミュージアムに集う人々、(3) アチックミュージアムの活動、(4) アチックミュージアムから神奈川県日本常民文化研究所へ、(5) 神奈川県日本常民文化研究所としての再生、(6) 歴史民俗資料学研究科の創設、(7) 学際的・国際的な広がり、とした。

常民研は、1921年渋沢敬三によって創設されて以来、一貫して庶民の生活に視点を定め、それを文献資料、民具や写真、絵画資料



写真2 昭和初期「奥三河花祭り」の映像も視聴可能

などさまざまな資料から追求し、それまでの農業中心の考え方から、漁村や漁業、海民への注目など「海」の視点からみる日本文化の重要性を早くから指摘している。

この常設展は、本学を志す高校生や在校生、卒業生に加え、来校する国内外の研究者に対して常民研の研究目的や意義を示すことをも目的としたため、展示委員会では、単なる研究所の沿革だけではなく、研究所のもつ特徴的な研究視角や研究手法をわかりやすく表現するよう努めた。

まず導入部にアチックミュージアム当時の民具展示室内部の写真を壁面いっぱいには伸ばし、庶民の生活を研究するための資料として着目した「民具」とはどのようなものなのかをイメージさせるようにした。また多彩な研究方法を示す事例のひとつとして足半^{あしなか}（草履の一種）研究を取り上げ、鼻緒の結び方を分類・類型化した図版や、足半の内部構造を知るためにレントゲン写真を用いたことなどを図示した。さらにアチックミュージアムは昭和初期、まだカメラが高価であった時代に16ミリカメラを回して各地の民俗を動画で記録、民俗調査のツールとして動画や写真を用いた嚆矢としても知られており、これを示すため展示パネルに動画再生装置を組み込み、昭和初期に撮影された奥三河花祭りの動画を紹介することも試みた。

研究視角や研究手法の展示としたため、展示ケース内は研究成果である刊行物など平面的な資料と解説が多くなり、変化に乏しい印象になったが、実物資料を展示する企画展と併せて観覧することで、常民研の活動に興味を持っていただく一助となれば幸いである。

和船の歴史と造船技術

——「近藤友一郎和船模型の世界」——

昆 政明

企画展コーナーは「神奈川大学の教育研究成果を社会に還元することを目的とし、大学が保有する学術情報、資料等を公開する」ために開設されたもので、その最初の企画展として当研究所が担当した「近藤友一郎和船模型の世界」が開催されている。近藤友一郎氏（1928年～2008年）は静岡県焼津市の船大工3代目にあたり、近藤和船研究所を設立して模型製作を中心とした和船研究を行ってきた。今回、縁あって近藤和船研究所の資料を神奈川大学が所蔵することとなった。近藤和船研究所の資料は、氏が作成した和船模型、船舶資料、図面、船大工道具等で、今回の企画展はそのお披露目を兼ねて開催したものである。展示資料は氏が作成した船舶模型14点と船大工道具約400点である。展示内容は模型と船大工道具を通して、和船の歴史と構造および和船建造技術の特徴が理解できるよう配慮したものとなっている。また、同じ3号館地下1階には横浜市歴史博物館が1997年に開催した企画展「海からの江戸時代」の展示品として近藤氏が製作した百石積弁才船の実物大断面模型も展示されており、企画展と合わせて見ることによって、和船への理解がより深まるものと期待している。

展示は大きく3コーナーに分かれる。最初のコーナーはパネルによる近藤友一郎氏とその業績に



写真1 展示室全景

関する紹介である。次は船大工の道具を中心とした船造りのコーナーである。ここでは船材を得るための木材の伐採から運搬、製材、設計、造船に関わる実物資料によって構成されている。船模型の展示は、展示室中央に鎌倉時代の廻船と菱垣廻船の模型を置き、壁面に小型和船を配列した。この模型により中世と近世の違いを見ることが出来る。壁面に配置された和船模型は磯漁用の小型漁船、沖合用の大型漁船、河川湖沼用、小型荷船などでこれを船体構造の発達段階に応じて配列した。また、弁才船の半割模型と洋式船のフレーム模型を対比させて配置し、板合わせ構造の和船とキールに肋骨を配置する洋式船の構造の違いが理解できるよう配慮した。企画展の開催に合わせて、講座やシンポジウム、展示解説会などを開催し、多くの方々の参加を得ている。また、展示内容についても工夫されたパネルの効果もあって大方の好評を得ている。

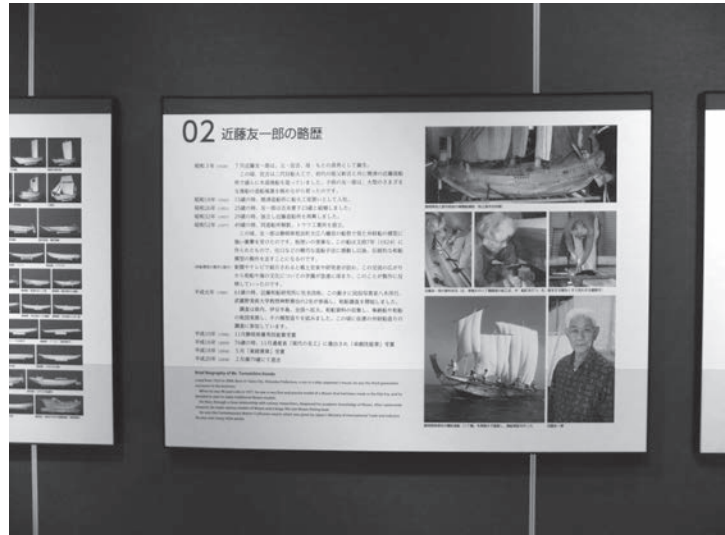


写真2 近藤友一郎氏の略年譜パネル



写真3 船大工コーナー

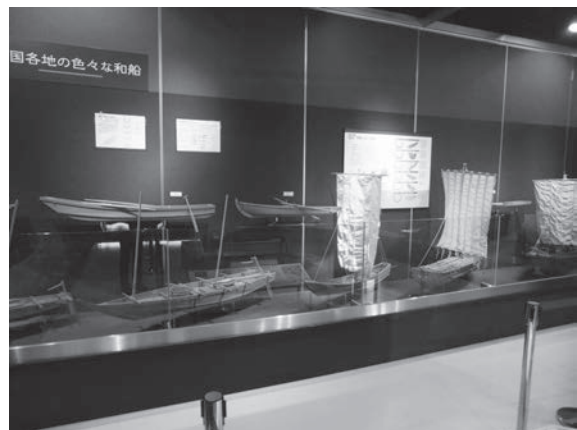


写真4 模型コーナー（壁面部分）

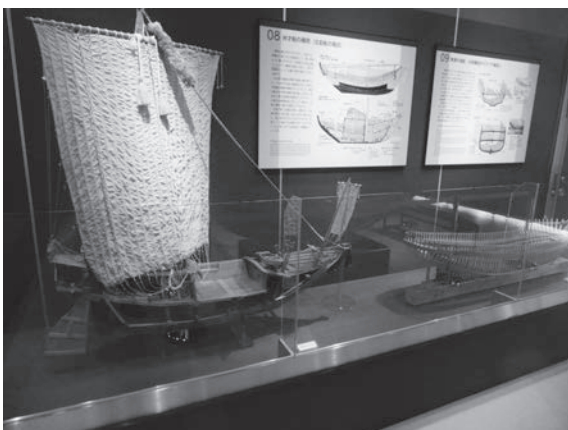


写真5 半割模型と洋式船構造模型



写真6 実物大断面模型